

# 現象学研究会

## 概要

今年度は現象学の創始者エドムント・フッサールの古典的なテキスト『イデーンI』の読書会を活動の軸として、以下の3つの課題に取り組む。

- 課題1：現象学と科学的实在論との関係の解明。  
課題2：現象学の方法論や基礎概念をメンバー各人が習得する。  
課題3：個人の研究課題の発展に寄与する新しい視座をメンバー各人が獲得する。

『イデーンI』は現象学のもっとも代表的な著作であり、本研究会メンバーの多数が強い関心を寄せている。「現象学的還元」という方法論と、「ノエシス・ノエマ」という現象学独特の概念をメンバー各人が身に着けることで、それぞれの研究課題に活かすことが本会の目的である。

また、読書会の質疑応答では、課題1と関連して、科学的な实在論と現象学的なものの方との関係を中心的なテーマにして、質疑をおこなった。

## 運営方法

場所: zoomミーティング

頻度: 月に1回

形態: ①読書会 ②研究発表・議論

- ①あらかじめ設定した共通課題についての討議や読書会  
②各自の専門分野について初修者にも分かり易く20分で報告 質疑応答と議論

## 活動内容

### ◇読書会

#### E.フッサール『イデーンI』

超越論的現象学という方法論を明確に打ち出した20世紀で最も重要な哲学書の一つ  
特に重要な以下の箇所を読解した。

#### 第二篇 現象学的基础考察

- 第一章 自然的態度のなす定立と、その定立の遮断  
第二章 意識と自然的現実  
第三章 純粹意識の領域  
第四章 現象学的還元

#### 第三篇 純粹現象学の方法態度と問題探究のために

- 第三章 ノエシスとノエマ

## メンバー・研究内容

- 蛸子 良風 フッサール、レヴィナスの現象学  
宮内 沙也佳 アメリカにおける肥満表象の研究  
若杉 直人 バタイユにおけるミメシスについて  
森 敬洋 ユング精神分析や音楽評論  
坂東 行雅 デリダとフッサールの言語論  
堀尾 萌子 フッサールの自我論の研究  
宮野 瑠花 メルロ＝ポンティの哲学  
苧野 美雪 フッサール現象学

## 各回の内容

- 第一回: 読書会の運営方針に関するミーティング  
内容(読書会範囲の決定)  
第二回: 『イデーンI』第二七節から第三四節  
内容(現象学的エポケーについて)  
第三回: 『イデーンI』第三五節から第四一節  
内容(志向的分析について)  
第四回: 『イデーンI』第四二節から第四六節  
内容(内在性と超越性)  
第五回: 『イデーンI』第四七節から第五二節  
内容(内部知覚と外部知覚)  
第六回: 『イデーンI』第五三節から第六二節  
内容(さまざまな超越物へのエポケー)  
第七回: 『イデーンI』第八七節から第九六節  
内容(ノエシスとノエマ)  
第八回: 総括と今後の展望

【通算8回開催】

※上記を除く2回は運営計画協議等を実施

